

発行元：新島村農業委員会事務局（新島村産業観光課内） ☎（5）0284（直通）

令和5年度農業委員会だより3月号

刈払機・トラクター 安全講習会の開催

▽講習会の様子



1月18日、刈払機とトラクターの安全講習会に出席しました。最初にスライドを使って、トラクターや耕運機など農作業機による事故の症例や安全対策による講習がありました。

農作業事故は年間約7万件、1日あたり約200件発生しています。就業者10万人当たりの死亡事故者数は10・5人。年齢別にみると65歳以上の高齢者の割合が85%を占めているそうです。農作業中の死亡事故は一般交通事故の約7倍、建設業の約3倍にも及ぶため、農林水産省をはじめ、全国農業協同組合連合会、農作業機械メーカーでは、安全講習会や農作業安全確認運動を行い、安全で豊かな

農業の発展に取り組んでいます。

トラクターや耕運機などの農作業機は、レバーやスイッチが多く、重心の位置が作業によって変化し、鋭利な刃や回転物のある機械もあるため注意が必要です。また夏場には炎天下での作業、種まきや収穫などの繁盛期には疲れや焦り、一人での作業も事故が起こる要因となります。

実際の講習ではトラクターの乗り方、シートベルトなどの安全確認、刈払機の正しい使い方を分かりやすく、実物で実践しました。

農業委員会では定期的に安全講習会を主催していますので、ぜひ機会があれば参加してみてください。

農業委員 小久保利佳

▽トラクターを 運転する様子



▲農作業事故の要因や対策を動画で紹介

島の暮らしの中に昔から受け継がれてきた農業、大工バという文化が徐々に失われようとしている。高齢化に伴い使われていない農地が急激に増えてきました。新しい担い手を、といてもなかなか増えていかなのが現状です。

農業に興味がある方の門戸を下げたげるのも農業委員会の役割なのかもしれません。そこで今回は農業を「簡単に、楽しく、気軽に」YOUTUBEから始める農業のお話です。

◆シェア畑「農園らいふ」
<https://www.youtube.com/@sharepatakeife>
シェア畑のベテランアドバイザーが季節品種ごとに基本的な野菜の作り方、施肥の仕方、仕立て方など基本的な技術をわかりやすく解説してくれる。初心者向けのチャンネル。

◆塚原農園
<https://www.youtube.com/@tsukaharafarm>
登録者数67万人の農チユーバー界一番の人気チャンネル。日々の農作業、家庭菜園、旬の野菜レシピを紹介してくれます。優しい語り口と丁寧な解説が人気のチャンネルです。

◆ひろちゃん農園
<https://www.youtube.com/@hirochan-farm>
79歳のユーチューバーひろちゃんが少量多品種で有機農法、化学農薬なしの美味しい野菜の作り方を教えてくれる。

家庭菜園を学ぶには最高のツールですが、動画で言われていることが全ての畑に当てはまる事ではありません。土壌の状態や気候によっても変わってきます。皆様自身で工夫を重ね失敗しながら楽しむのも家庭菜園の醍醐味だと思います。まだ「農チユーバー」を知らないという方は是非ご覧になってみてください。お気軽に楽しく家庭菜園をはじめてみましょう。

農業委員 百井隼太

さつまいも苗の生産事業



▲種芋から芽出しをしている様子

メリクロン苗はクリーンベンチ（無菌室）で育てられるために種芋の影響を受けないこと、無病に育つた苗です。メリクロン苗の特徴としては、生育が旺盛になり、芋の太りがよく、高品質のサツマイモが収穫できます。といったメリットがあります。それならば、全てメリクロン苗がいいという話になります。そうはいかない事情があります。メリクロン苗を植え付けるまで2年かかります。

種芋を植え付けている様子



ふれあい農園で行っているサツマイモ苗の生産事業について今回はご紹介いたします。サツマイモ苗の生産は主に2つの方法があります。

1つ目は昨年収穫した種芋を発芽させて、翌年の苗にする方法。

2つ目は「メリクロン苗（ウイルスフリー苗）」といって芋の生長点の細胞を切り取って2年かけて小さな苗にしたものを、ふれあい農園のハウスに植え付けて販売用の苗を作る方法です。

サツマイモのように種で繁殖しない植物は、親芋の病気が子芋にも伝染する確率が高くて、ウイルス病を引き継いでしまうこともあります。



▲メリクロン苗を植え付けている様子

翌年の苗の依頼を専門メーカーに依頼するのは2年前ということです。もう一点は2年もかかるメリクロン苗は非常に高価です。そのため私達は、種芋から親芋を選別する際に、病気におかされていない大きな芋を使用して、苗を生産しています。

苗を生産するにあたってサツマイモの場合は一年を通して管理が必要になり、とても大変ですが、やりがいをもって従業員は作業しています。

年々、甘いサツマイモの需要が大きくなっています。みなさまもご家庭でおいしいサツマイモ栽培に挑戦してください。

ふれあい農園 十川 剛士

農業としての焼酎造り

高校生がつくった島の特産あめりか芋（七福芋）を焼酎『七福嶋白慢』にして、成人式に贈呈する・・・という話題をNHK「新日本風土記」で取り上げていただきました。

秋の芋掘り、焼酎の仕込み、成人式と長きにわたる取材いただき、貴重な体験となりました。

新島を含む伊豆諸島では古くから焼酎造りが行われてきました。

焼酎は農作物のデンプンを麹が作り出す酵素で糖化し、この糖分を酵母菌が分解して出来たアルコールを蒸留してつくり



この麹には「米」を使用することが多いですが、伊豆諸島の多くは米が作れないために麹に「麦」を使うという珍しい製法でつくり続けてきました。

現在、東京諸島の中では伊豆大島から青ヶ島までの伊豆諸島各島で、この麦麹芋掛という島酒がつくられていて、当社を含む東京七島酒造組合ではこの「東京島酒（蒸留酒）」の地理的表示指定」を目指して活動しています。

他の島の蔵元では島外から原材料の芋を移入したり、島で栽培したとしても多品種を混ぜての仕込みになります。新島村には脈々と栽培されてきたあめりか芋があり、甘藷（さつまいも）では唯一東京都地域資源に認定されています。

まさに新島の芋といっても過言ではありません。

今後、あめりか芋がますます注目を浴びていきますように、当社も芋づくり・焼酎造りに力を入れてまいります。

農業委員 宮原 淳